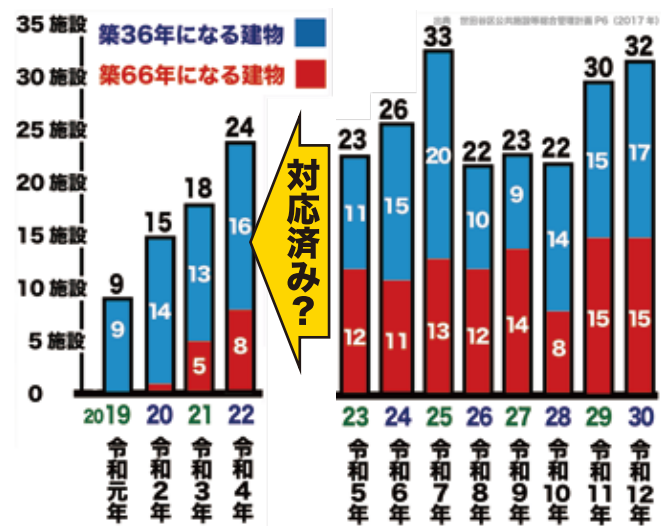


老朽化する公共施設が次々押し寄せる 選挙前になると急に黒字になる保坂区政の不思議



税金を貯めて黒字化するために
耐用年数を 60 年から 65 年に変更

●平成 29 年の計画では「今後 30 年間に築年数が 60 年を迎える公共建物は 303、**築 60 年程度で建て替えを検討することが必要**。これまでの 4 倍の施設数を毎年更新しなければならない」●ところが平成 30 年 4 月の世田谷区新実施計画（後期）では「公共建物の適切な保全による**改築時期を 65 年に延伸を図り、改修で対応**」と変更●たった 1 年で変更？おかしくない？

令和4年度 新規施設建設・大規模改修予定一覧		
番号	施設名	工事項目
1	世田谷区役所本庁舎等（世田谷4-21-27）	改築工事（2年目）
2	桜丘区民センター（桜丘5-14-1）	大規模改修
3	旧池尻中学校（池尻2-4-5）	大規模改修
4	三宿つくしんぼホーム（三宿2-30-7）	大規模改修
5	烏山福祉作業所（北烏山1-29-15）	大規模改修
6	（仮称）玉川地域拠点保育園（等々力4-19）	新築工事（3年目）
7	八幡山一丁目アパート	大規模改修
8	池之上小学校（代沢2-42-9）	改築工事（1年目）
9	八幡中学校（等々力6-4-1）	改築工事（1年目）
10	区立小学校 3校（九品仏、武蔵丘、千歳台）	大規模改修
11	区立小学校 4校（中里、弦巻、桜町、山野）	大規模改修
12	区立中学校 4校（尾山台、上祖師谷、千歳、砧南）	大規模改修
13	郷土資料館（世田谷1-29-18）	大規模改修

2 令和 4 年度当初予算概要 85 ページから引用

税金を貯めて黒字化するために
基金の減はイヤ 借金の増もイヤ

●結果、令和 4 年までに築 65 年以上（つまり築 66 年）を迎えた公共施設は 14 施設に激減しました●改築時期を勝手に 5 年先送りましたからです●築 60 年なら上表の令和 8 年までの分が、対応が必要だったのです（計 62 施設）●では築 65 年以上を迎えた 14 施設はどうなったでしょう。

黒字化するために
改築から 次々改修に変更！

●新築が 1 件、改築は 2 件ですが八幡中学校は一部改築で全面改築ではありません●また大規模改修ですが、そのほとんどが老朽化に対する耐震補強工事と空調設備改修です●しかし年度開始早々に中学校で「**エアコン故障騒動**」が起きています●昭和 40 年代の学校施設は建て替えた方が合理的な選択なのです●ちょびちょび手を入れても結果 2 重払いになるのです●あと問題なのは本庁舎！

保坂区長の「社民党コンプレックス」から「黒字が多いほど良い区政」の大誤解！

●保坂区長が 2 期目の当選直後に書いた本にこんな一節があります●「私が社民党出身の首長ということで“福祉には力を入れているだろ

うが、きっとお金をたくさん使ってバラマキの放漫財政じゃないか？」とイメージするだろうと（笑）。ところが財政健全化したという事実。なんとか 22 年ぶりに区の借金である区債を区の貯金である積立金が上まわり、黒字化しました●これを目にした時に保坂区長は地方財政を本当に理解してい

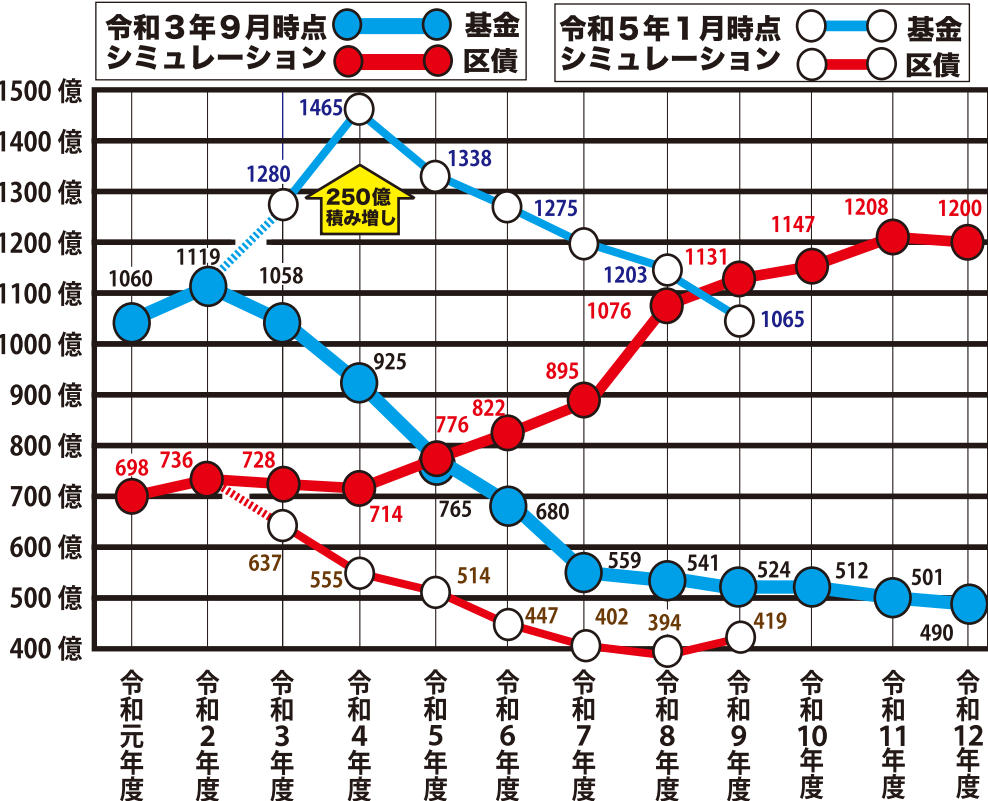
るのだろうかと不安を覚えました●確かに赤字より黒字が良いことに違いはありません●しかし、地方自治体の黒字とは多ければ多いほど良いことなのでしょう●保坂氏は貯金が借金を上回っていることを健全財政と決めつけています●しかしどうでしょう区民の皆さんも住宅ローンを抱えている人もいます●それらを一括りに健全財政ではないと言われたら？

選挙前に貯金が借金を上回る操作（政策）が世田谷区を縛っている！区民は報われない

●下図は令和 3 年 9 月のシミュレーション●そこでは令和 5 年度で借金が貯金を上回る想定（青丸と赤丸の折れ線）だった●しかしこれでは保坂区長は売り物の“健全財政”がなくなると考え、改築を改修に変え、計画の延伸、延期、先送りで支出を抑えた結果、令和 5 年 1 月のシミュレーションでは見

事に令和 9 年（次の区長任期）まで“健全財政”が続くシナリオに（点線部分を経て白○青線、白○赤線）●つまり従来から批判している保坂区長は「仕事ができない」のではなく「仕事をしない」のです●なぜなら「お金が減るから」●皮肉にもそんなことをしなくても今年度は最多税収（250 億積み増し）に！

基金（貯金）・区債（借金）残高シミュレーション 令和3年9月 & 令和5年1月の比較



区民の皆さんに問いたい 税金を貯め込むだけで 黒字の呪縛に取り憑かれた 区政運営 12 年いいのか？

行政のあり方が大変化
新庁舎 2 期工事は？

リモート・ワーク
AI の出現で
事務職激減！
感染症対策未対応



●世田谷区の新庁舎計画は東日本大震災がきっかけではなく、その 5 年後の熊本地震が保坂区長を決断させたといわれます●世田谷区史上最大の支出が保坂区長とは皮肉としか言いようがありません●それでも全面改築が避けられないにも関わらず、有名建築家の庁舎を保全だとか、改修だとかいろいろ理屈を並べ着工が 2 年遅れました●しかも**旧区民会館の外装だけ保全**するために位置をずらすことができず、狭い敷地の中での**難関工事**と



区長がショックを受けた宇土市役所

なり、追加費用が必要なり、総額 420 億となっています●また仮庁舎はいらないとのことでしたが、現在、玉川に仮庁舎を設けている始末●一方でこの数年で社会状況は一変しました●新型コロナウイルスは新たな“災害”です●また AI の想像以上の進展で、事務系の仕事に携わる人間が少なくなります●事務仕事の「かたまり」がまさに行政の仕事に他なりません●現在の新庁舎計画ではこれらのことが想定されていません●工事は今年秋に第一期工事が終了します。新庁舎建設の最大の目的だった「災害対策の中枢機能」は第一期工事で確保されます●このまま、第二期工事を着工すると、結局あとから過不足が生じ、また時代遅れとなり二重投資になる危険性があります●私たちの会派では令和 2 年の新型コロナウイルスの拡大時から第二期工事は再考すべきだと主張してきました●さらに新庁舎での想定職員数は 3100 人です●これは平成 28 年の基本構想時での 2830 人より 300 人増やしています●児童相談所等が入ることで追加したのですが、児童相談所はすでに松原に別施設として存在しています。

看板倒れの世田谷区
の「保育の質」虐待頻繁

●世田谷区と言えば「保育の質」が良いという評判だったのですが・・・●児童相談所の移管に伴って、多くの権限が都から世田谷区に移されました●その中でも認可保育園の「監督責任」が一番の目玉であります●それまで認可保育園でトラブルが起きてても都の責任で、どこか他人事のような報告でしかありませんでした●しかし認可保育園等の監督・指導権限が世田谷区に移った以上他人事では済まされません●当然、福祉保健委員会で正確に詳細が報告されるようになったはずですが・・・●実は令和 4 年 4 月以降、12 園で 23 行為の虐待事件が発生していたこと

が、なんと令和 5 年 2 月に報告●事実上の長期間の隠蔽で新聞報道が先行したため、隠しきれなくなって、以前の分もまとめて報告という事態になったようです●中には容疑者が逮捕される事件も含まれています●隠蔽も区長選を配慮してのことか、被害者の人権のためか判然としません●個人情報には別にして世田谷区の認可保育園の「保育の質」を保つためにも、きっちり報告すべきです●情報公開を第一に掲げている保坂区長の欺瞞が職員全体に広がっていることは、嘆かわしいことではないでしょうか。